*＜集計分析結果＞*

（単純集計版）

# 在宅介護実態調査の集計結果

～第９期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和５年 11 月

＜洞爺湖町＞

# 目次


1 基本調査項目（Ａ票）　[P.1]

（1）世帯類型　[P.1]

（2）家族等による介護の頻度　[P.1]

（3）主な介護者の本人との関係　[P.2]

（4）主な介護者の性別　[P.2]

（5）主な介護者の年齢　[P.3]

（6）主な介護者が行っている介護　[P.4]

（7）介護のための離職の有無　[P.5]

（8）保険外の支援・サービスの利用状況　[P.6]

（9）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス　[P.7]

（10）施設等検討の状況　[P.7]

（11）本人が抱えている傷病　[P.8]

（12）訪問診療の利用の有無　[P.9]

（13）介護保険サービスの利用の有無　[P.9]

（14）介護保険サービス未利用の理由　[P.10]

2 主な介護者様用の調査項目（Ｂ票）　[P.11]

（1）主な介護者の勤務形態　[P.11]

（2）主な介護者の方の働き方の調整の状況　[P.12]

（3）就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援　[P.13]

（4）主な介護者の就労継続の可否に係る意識　[P.14]

（5）今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護　[P.15]

3 要介護認定データ　[P.16]

（1）年齢　[P.16]

（2）性別　[P.16]

（3）二次判定結果（要介護度）　[P.17]

（4）サービス利用の組み合わせ　[P.17]

（5）訪問系サービスの合計利用回数　[P.18]

（6）通所系サービスの合計利用回数　[P.19]

（7）短期系サービスの合計利用回数　[P.20]

（8）障害高齢者の日常生活自立度　[P.20]

（9）認知症高齢者の日常生活自立度　[P.21]

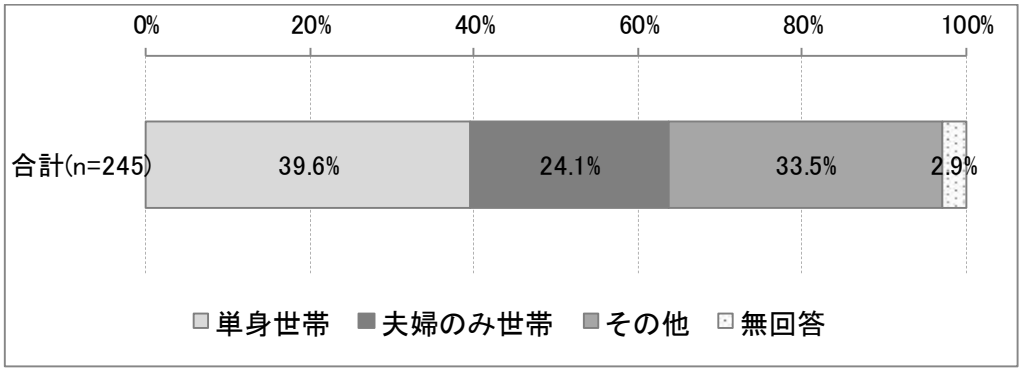

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

# Ⅰ　基本調査項目（Ａ票）

## (1)　世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く 39.6%となっています。次いで、「その他」が 33.5%、「夫婦のみ世帯」が 24.1%となっています。

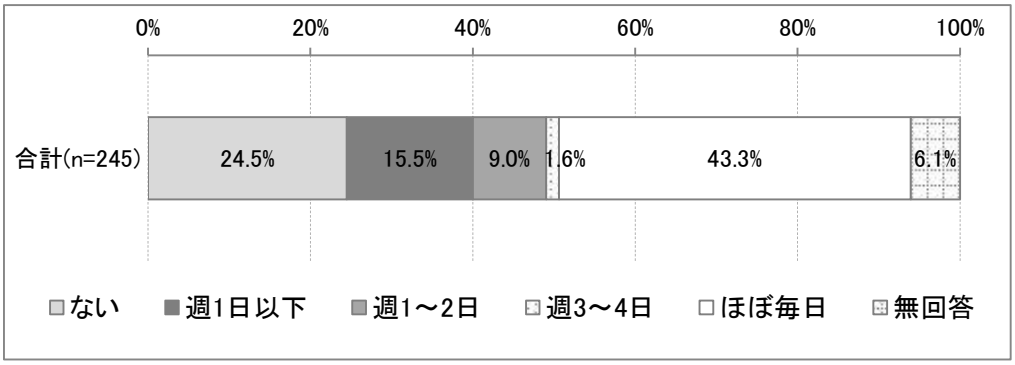
図表 I-1　世帯類型（単数回答）




## (2)　家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 43.3%となっています。次いで、「ない」が 24.5%、「週 1 日以下」が 15.5%となっています。

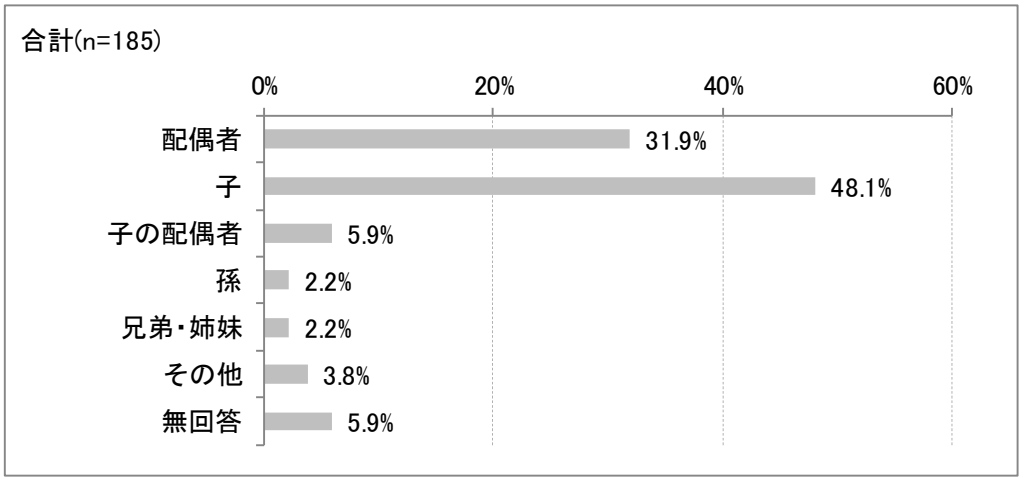
図表 I-2　家族等による介護の頻度（単数回答）



(3)　主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 48.1%となっています。次いで、「配偶者」が 31.9%、「子の配偶者」が 5.9%となっています。

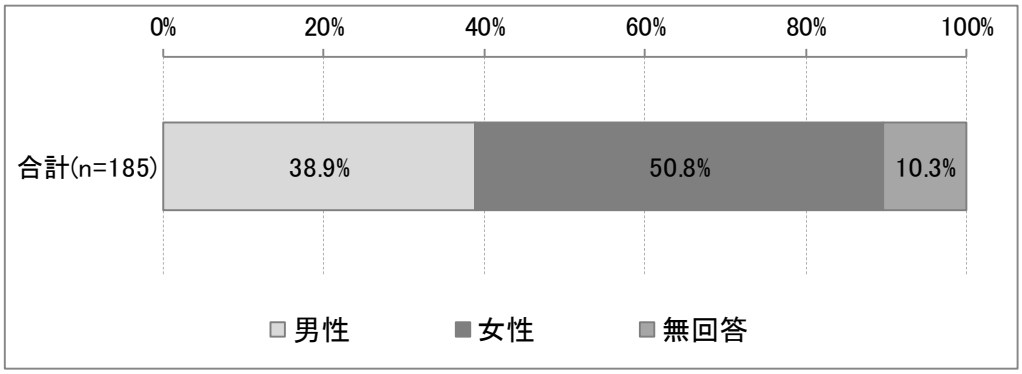
図表 I-3　★主な介護者の本人との関係（単数回答）




(4)　主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 50.8%となっています。次いで、「男性」が 38.9%となっています。

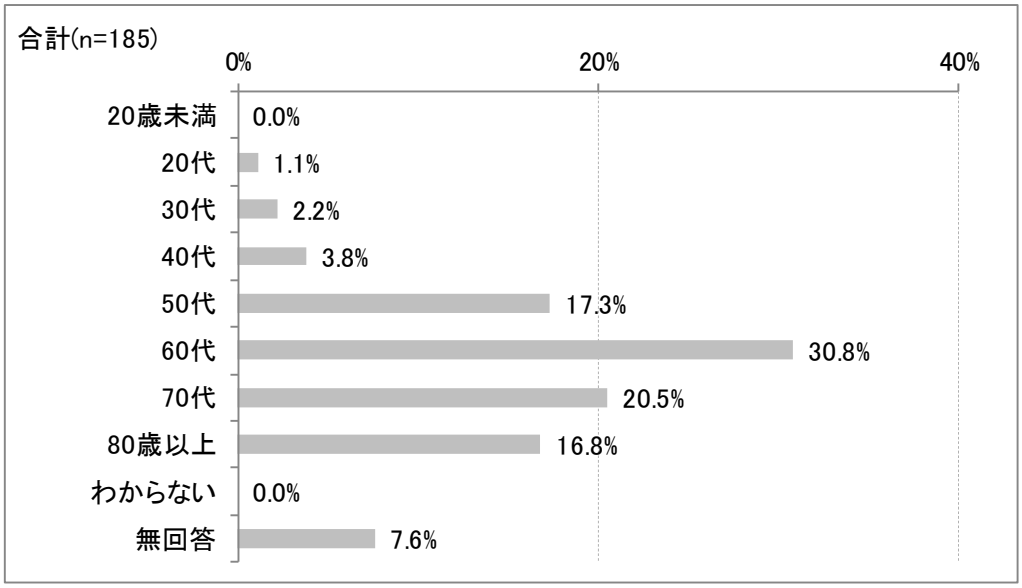
図表 I-4　★主な介護者の性別（単数回答）



(5)　主な介護者の年齢

「60 代」の割合が最も高く 30.8%となっています。次いで、「70 代」が 20.5%、「50 代」が 17.3%となっています。

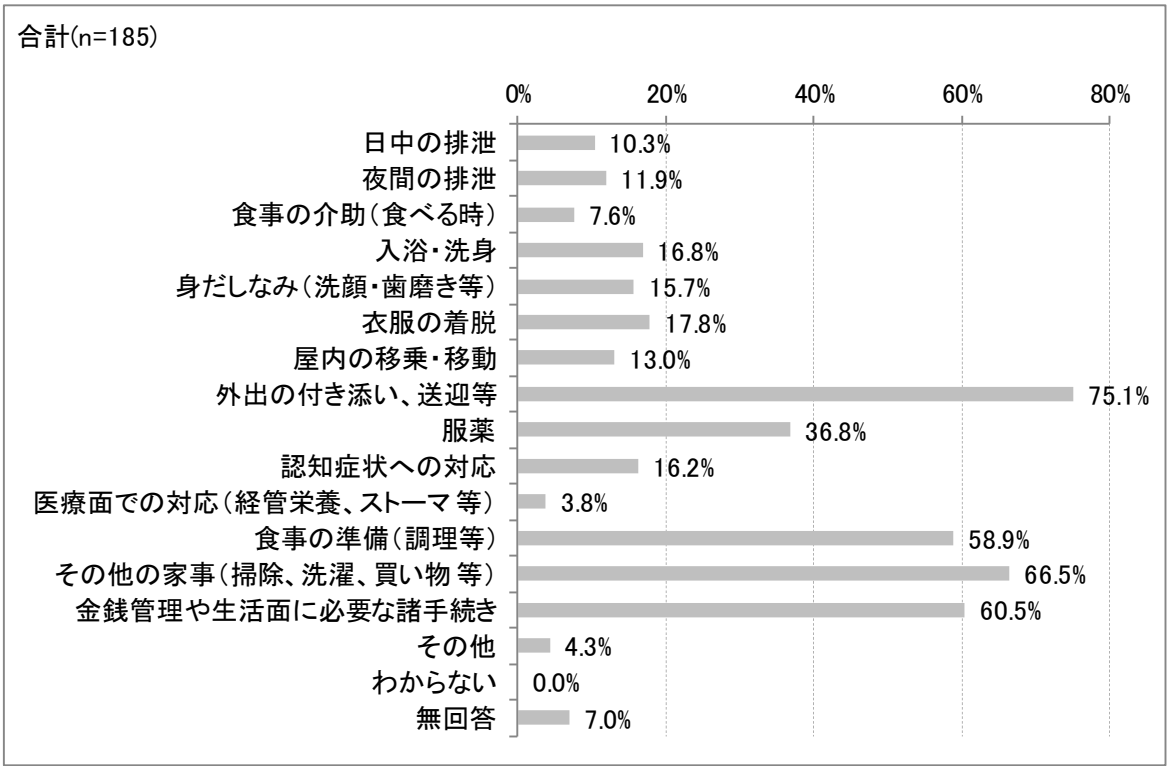
図表 I-5　主な介護者の年齢（単数回答）



(6)　主な介護者が行っている介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 75.1%となっています。次いで、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等)」が 66.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 60.5%となっています。

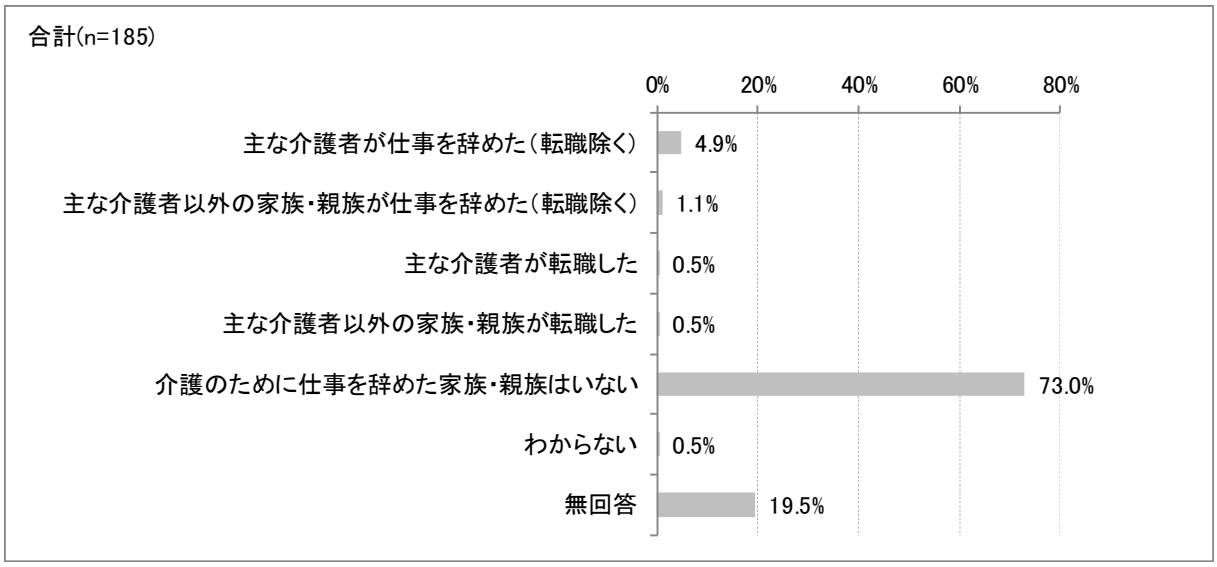
図表 I-6　★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7)　介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 73.0%となっています。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 4.9%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」が 1.1%となっています。

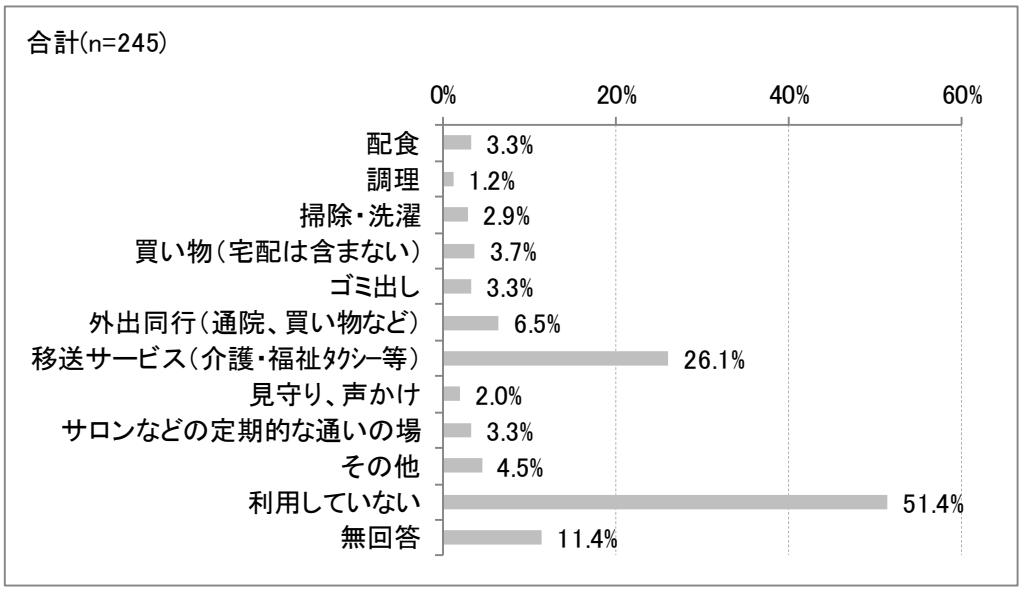
図表 I-7　介護のための離職の有無（複数回答）



(8)　保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 51.4%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 26.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が 6.5%となっています。

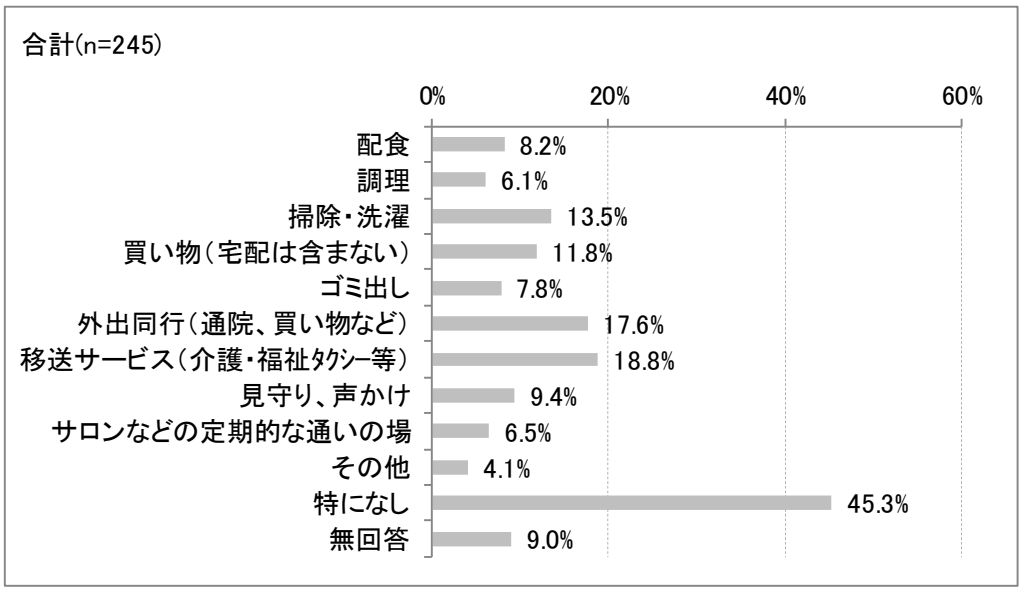
図表 I-8　★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9)　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 45.3%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 18.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が 17.6%となっています。

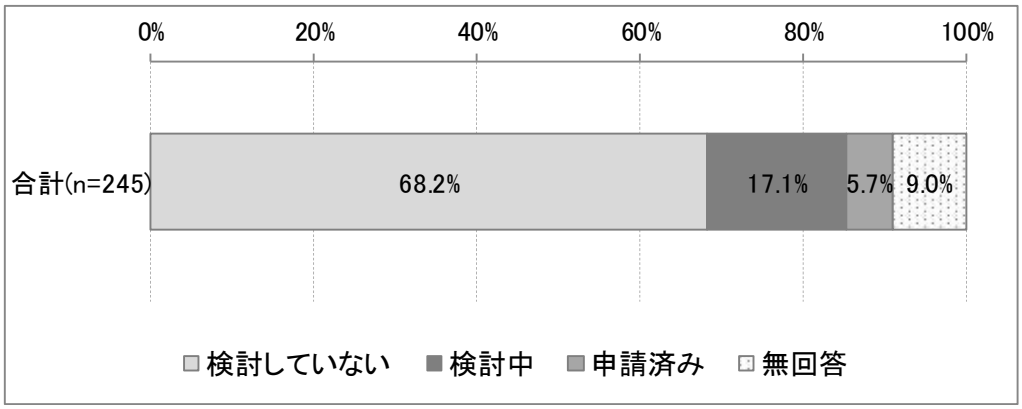
図表 I-9　★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）




(10)　施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 68.2%となっています。次いで、「検討中」が 17.1%、「申請済み」が 5.7%となっています。

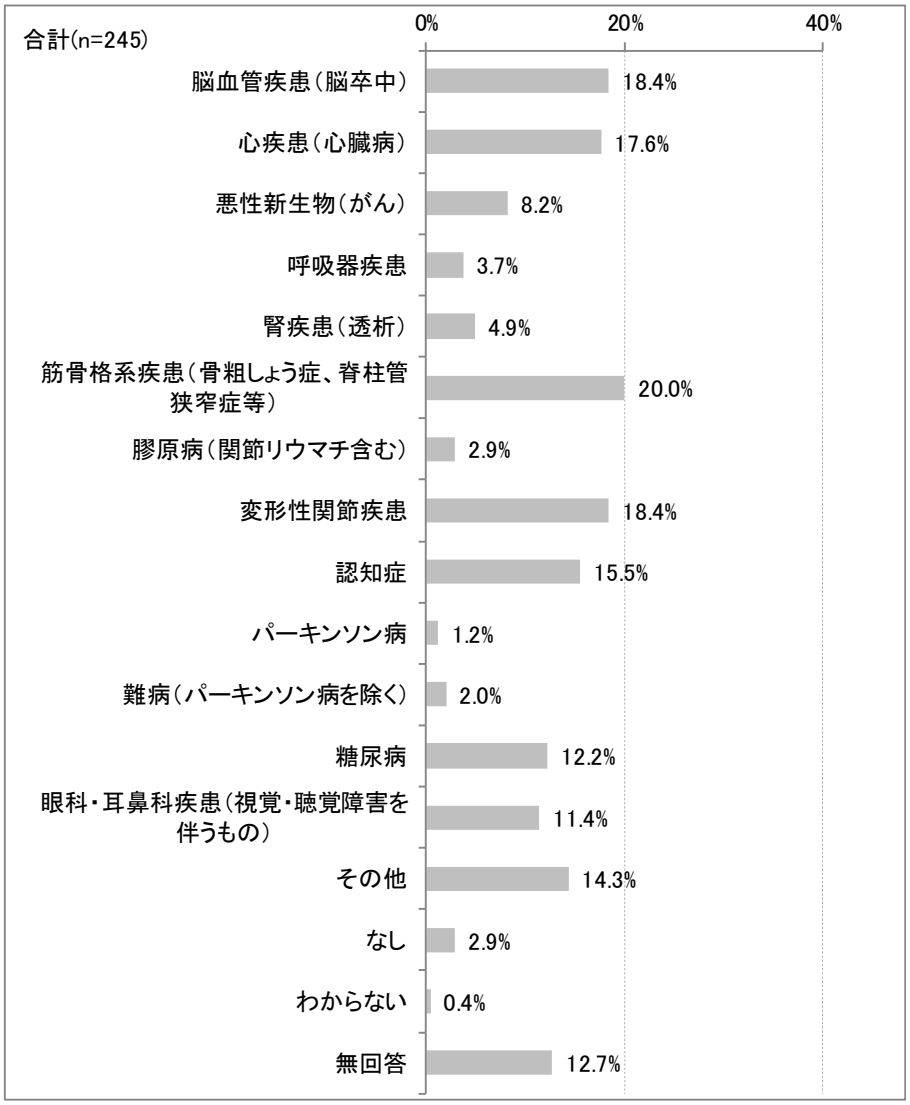
図表 I-10　施設等検討の状況（単数回答）



（11） 本人が抱えている傷病

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が最も高く 20.0%となっています。次いで、「脳血管疾患（脳卒中）」「変形性関節疾患」がそれぞれ 18.4%、「心疾患（心臓病）」が 17.6%となっています。

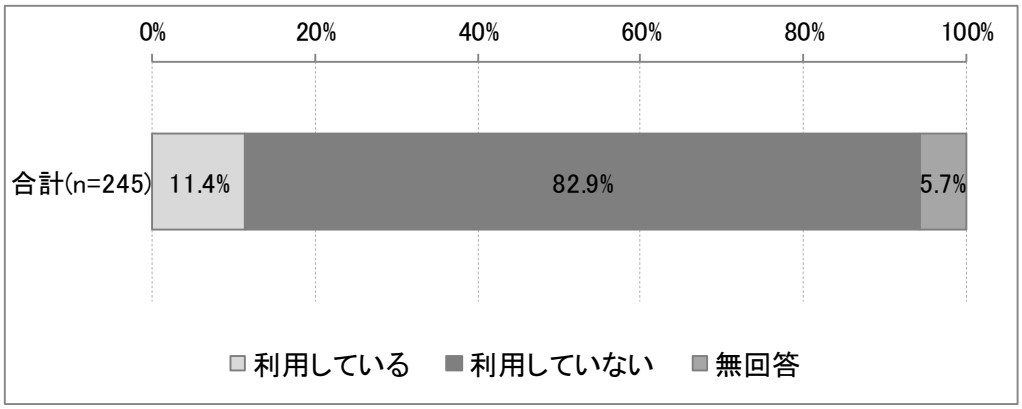
図表 I-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



（12） 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 82.9%となっています。次いで、「利用している」が 11.4%となっています。

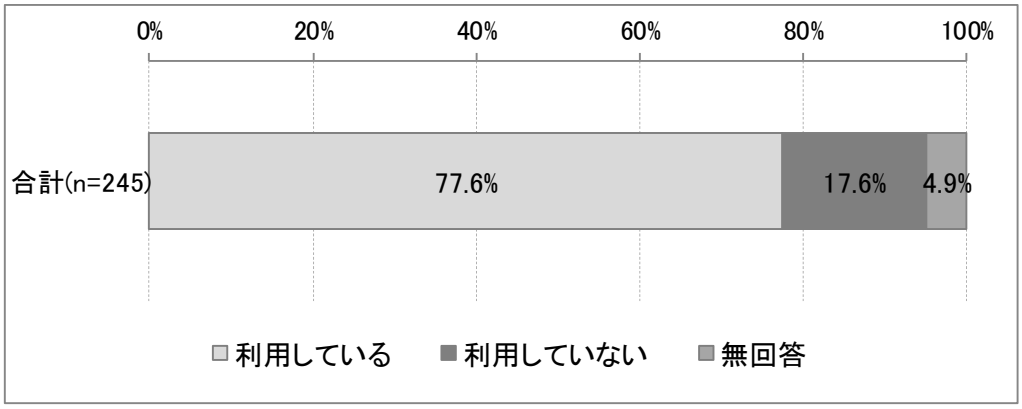
図表 I-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）




（13） 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 77.6%となっています。次いで、「利用していない」が 17.6%となっています。

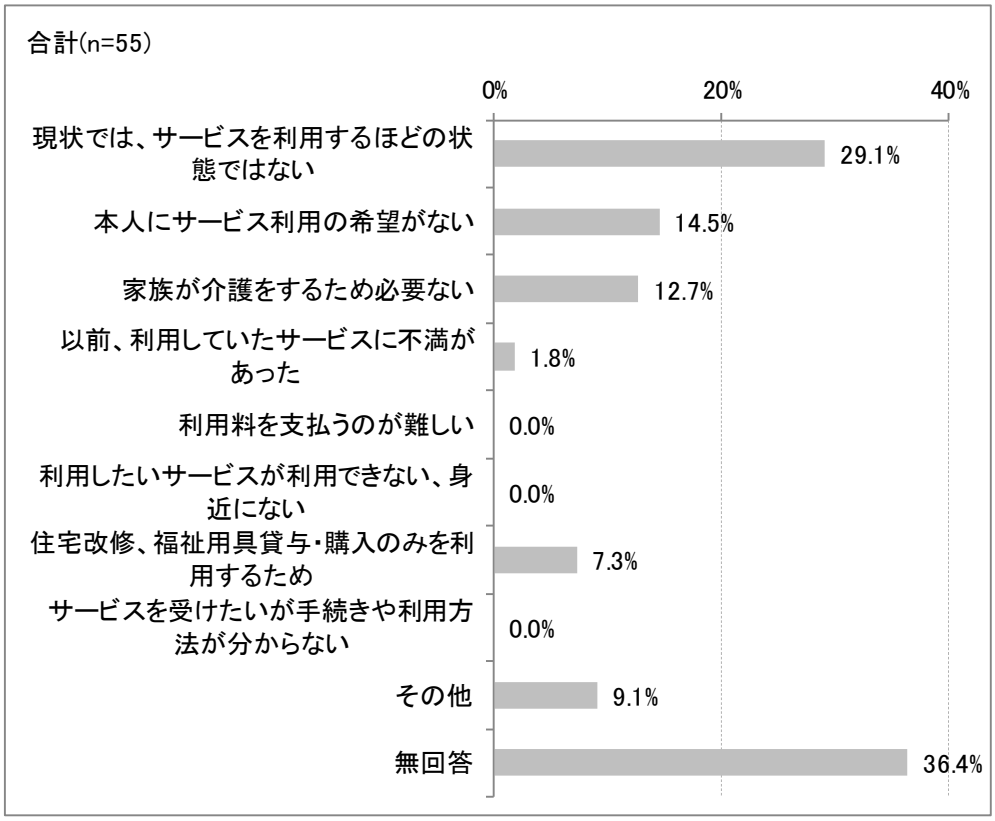
図表 I-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



（14） 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 29.1%となっています。次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 14.5%、「家族が介護をするため必要ない」が 12.7%となっています。

図表 I-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

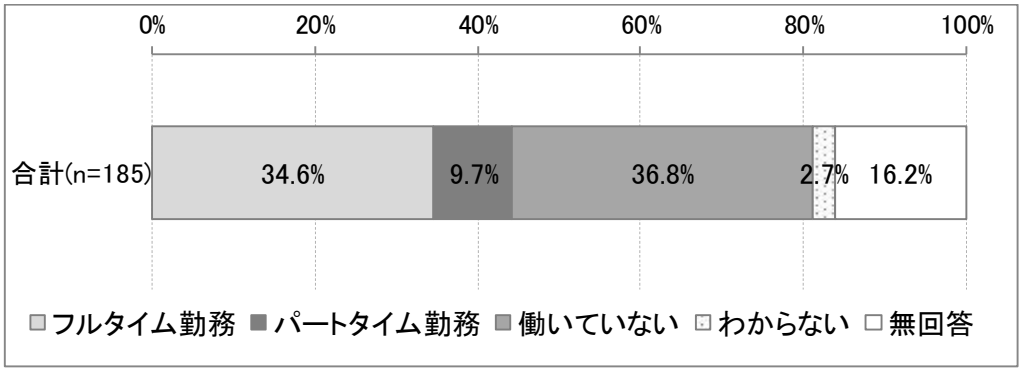


## 2　主な介護者様用の調査項目（Ｂ票）

### (1)　主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 36.8%となっています。次いで、「フルタイム勤務」が 34.6%、「パートタイム勤務」が 9.7%となっています。

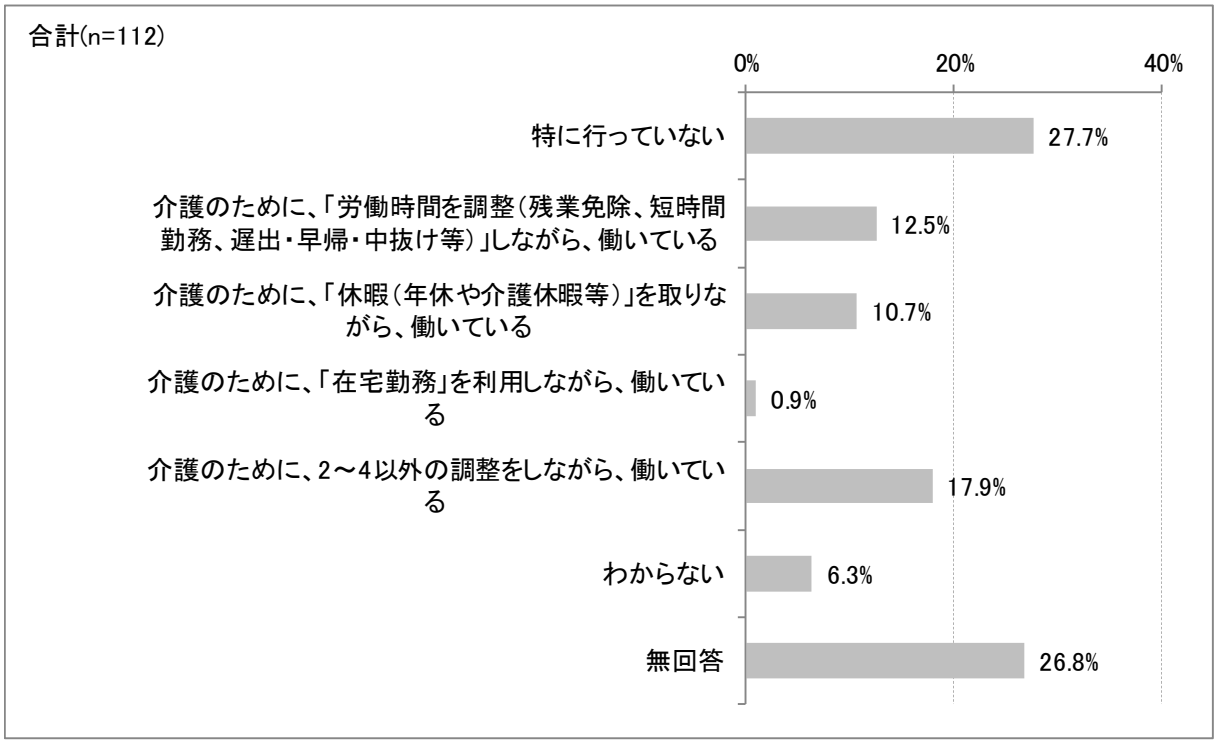
図表 2-1　主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2)　主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 27.7%となっています。次いで、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 17.9%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 12.5%となっています。

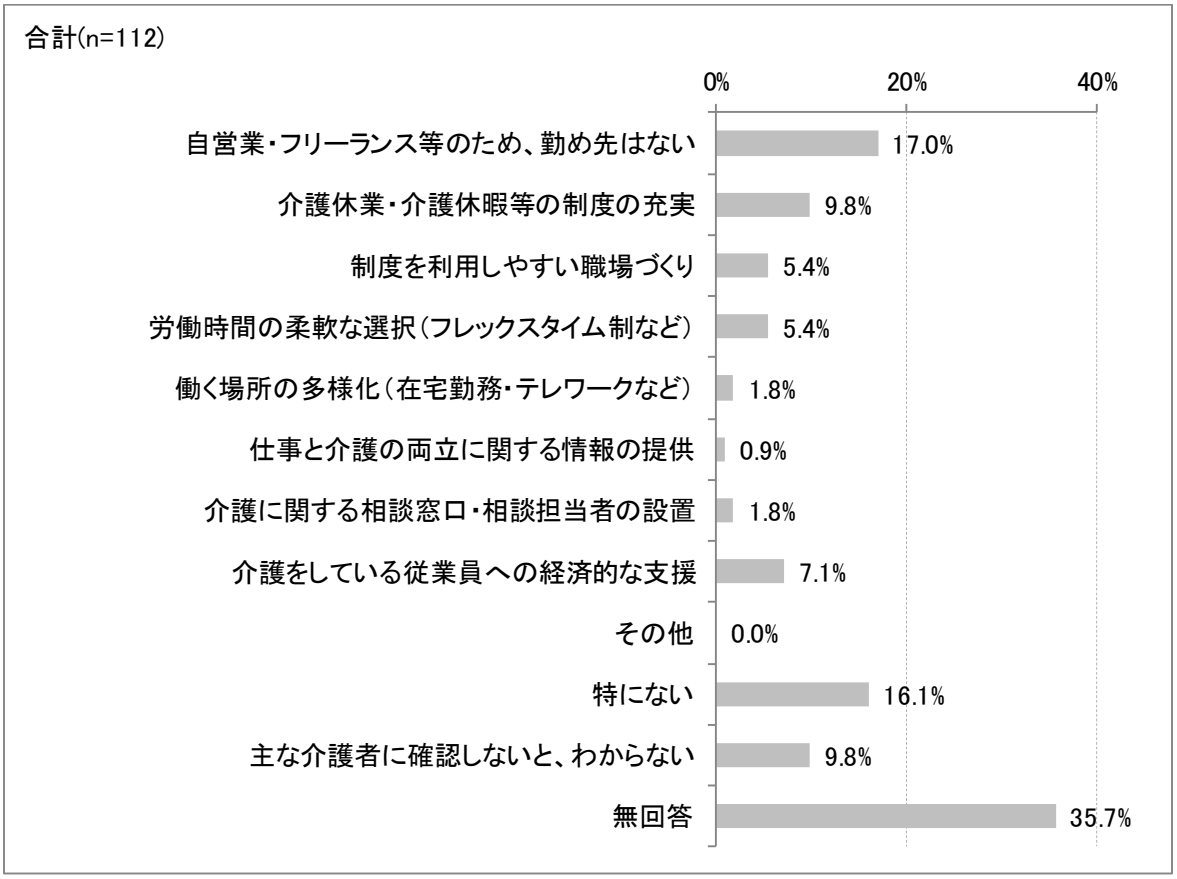
図表 2-2　主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3)　就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」の割合が最も高く 17.0%となっています。次いで、「特にない」が 16.1%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「主な介護者に確認しないと、わからない」がそれぞれ 9.8%となっています。

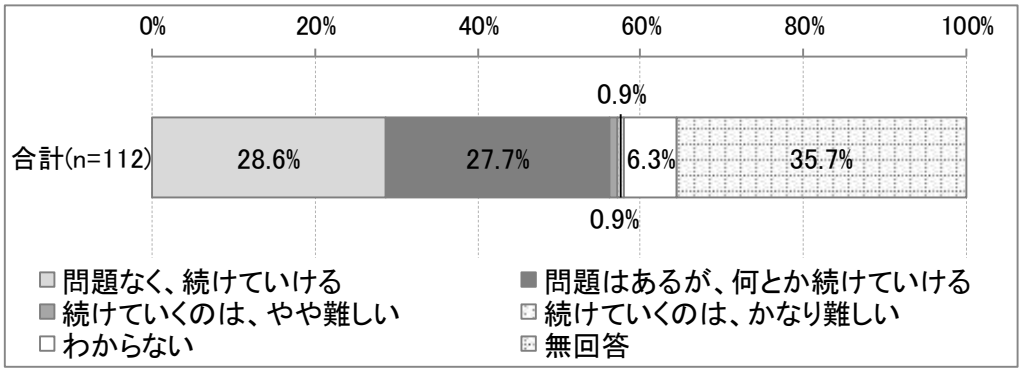
図表 2-3　★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4)　主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題なく、続けていける」の割合が最も高く 28.6%となっています。次いで、「問題はあるが、何とか続けていける」が 27.7%、「わからない」が 6.3%となっています。

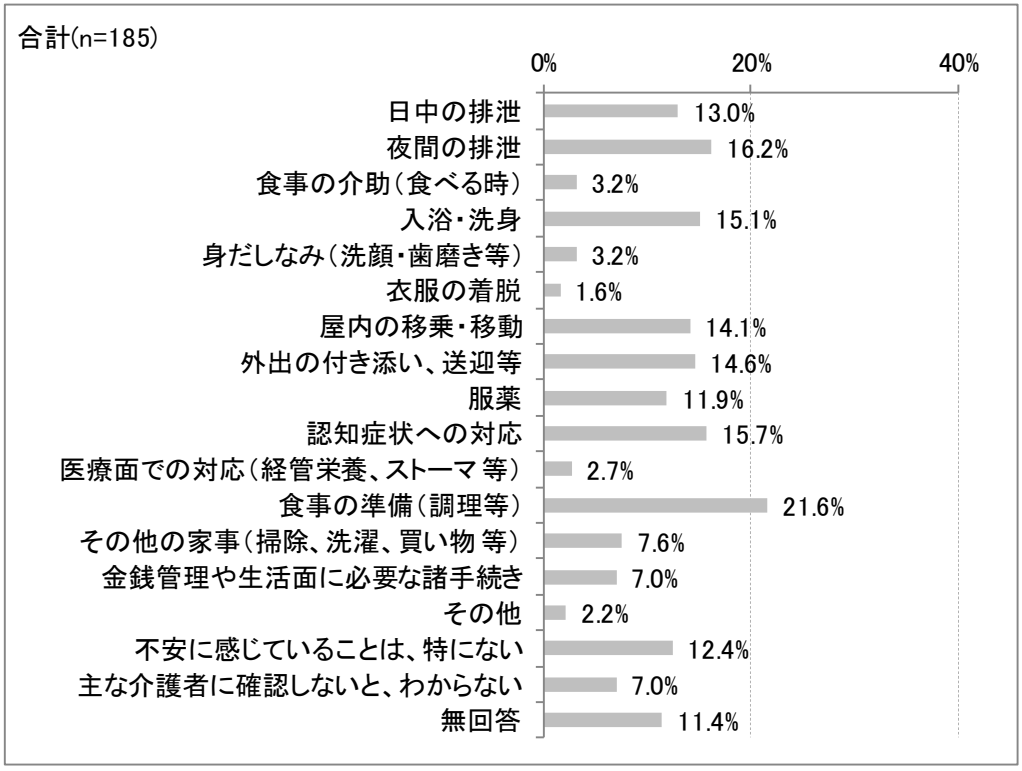
図表 2-4　主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5)　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「食事の準備（調理等）」の割合が最も高く 21.6%となっています。次いで、「夜間の排泄」が 16.2%、「認知症状への対応」が 15.7%となっています。

図表 2-5　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

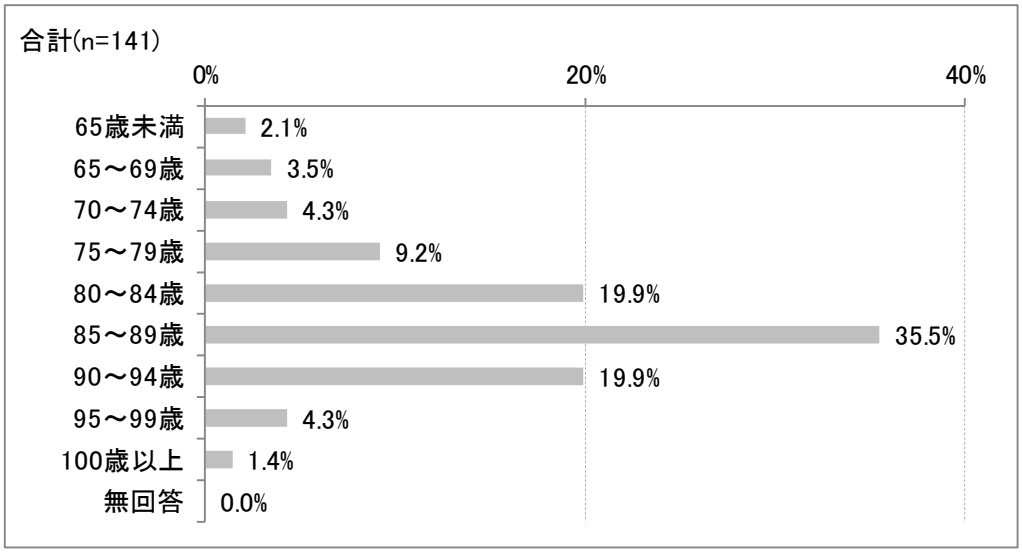


## 3　要介護認定データ

### (1)　年齢

「85～89 歳」の割合が最も高く 35.5%となっています。次いで、「80～84 歳」「90～94 歳」がそれぞれ 19.9%、「75～79 歳」が 9.2%となっています。

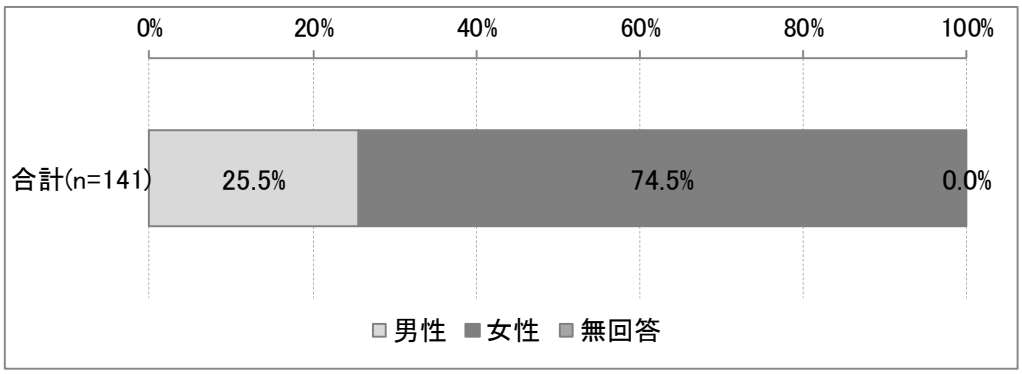
図表 3-1　年齢




### (2)　性別

「女性」の割合が最も高く 74.5%となっています。次いで、「男性」が 25.5%となっています。

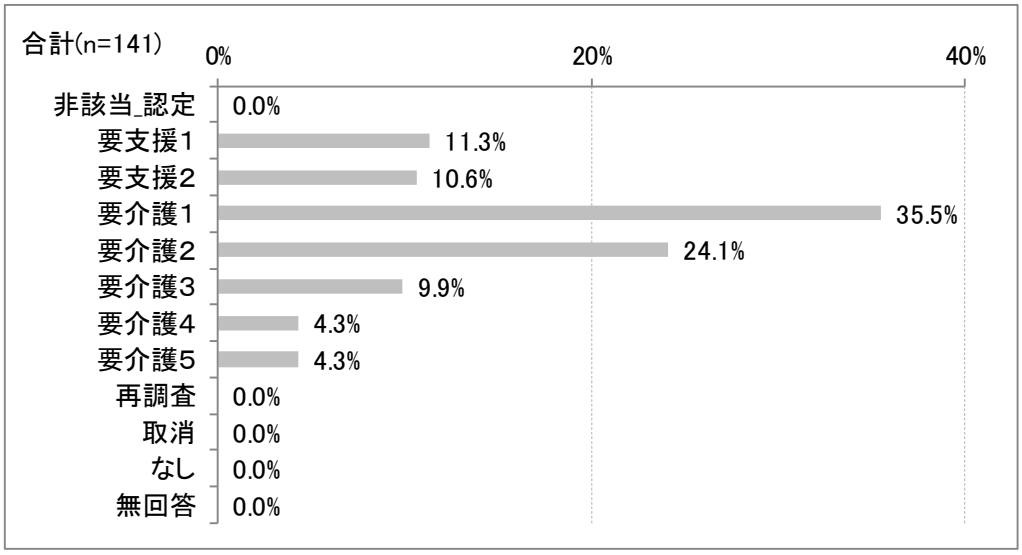
図表 3-2　性別



(3)　二次判定結果（要介護度）

「要介護１」の割合が最も高く 35.5%となっています。次いで、「要介護２」が 24.1%、「要支援１」が 11.3%となっています。

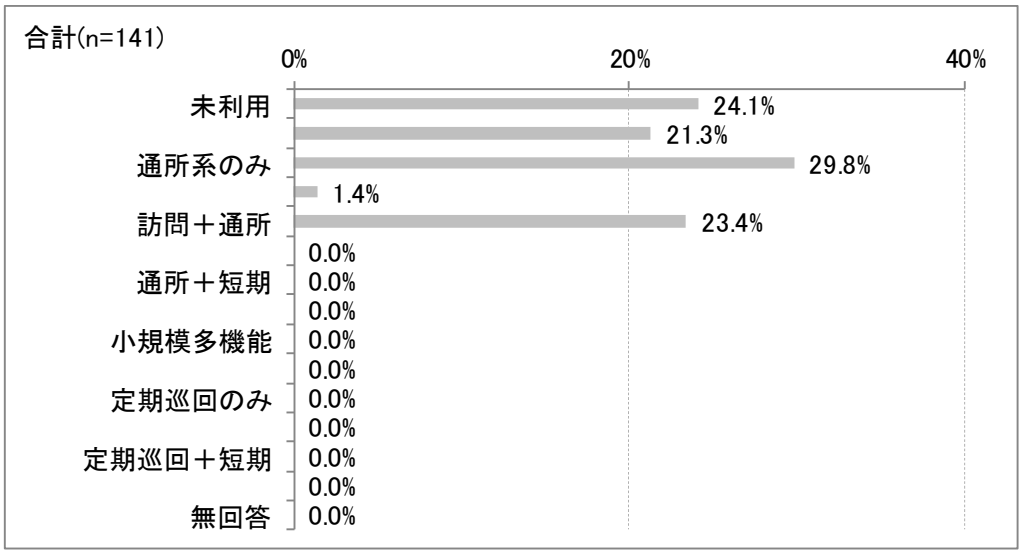
図表 3-3　二次判定結果




(4)　サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く 29.8%となっています。次いで、「未利用」が 24.1%、「訪問＋通所」が 23.4%となっています。

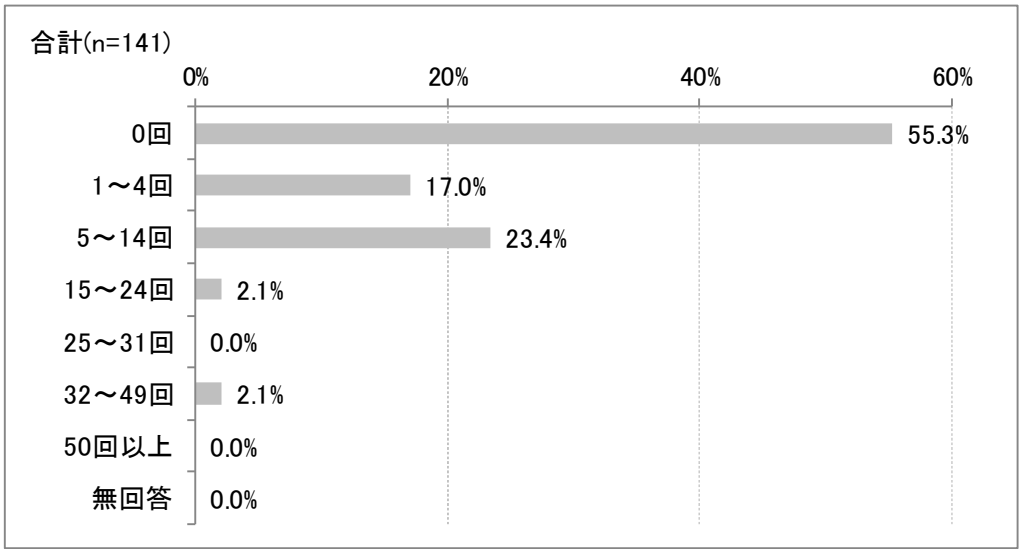
図表 3-4　サービス利用の組み合わせ



(5)　訪問系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 55.3%となっています。次いで、「5～14 回」が 23.4%、「1～4 回」が 17.0%となっています。

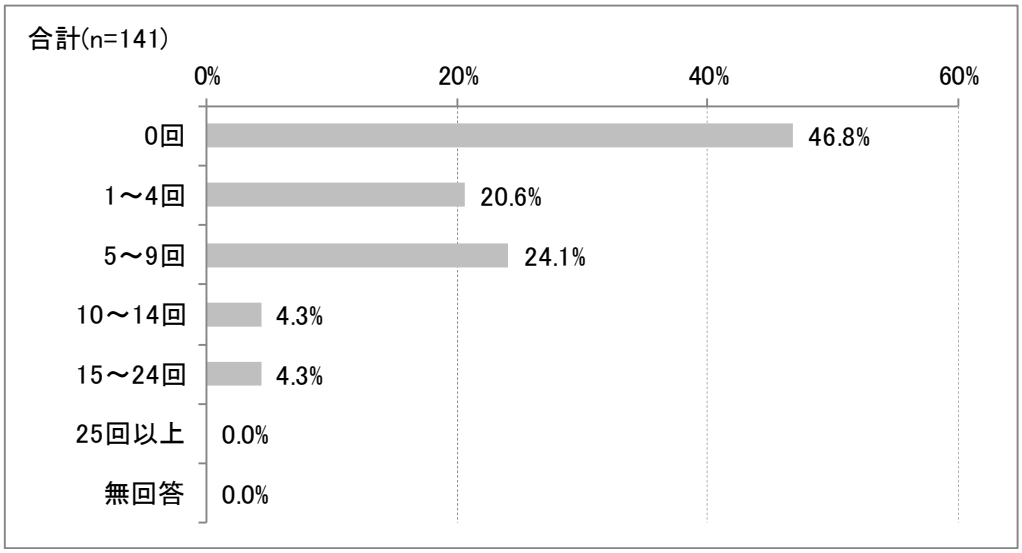
図表 3-5　サービスの利用回数（訪問系）



(6)　通所系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 46.8%となっています。次いで、「5～9 回」が 24.1%、「1～4 回」が 20.6%となっています。

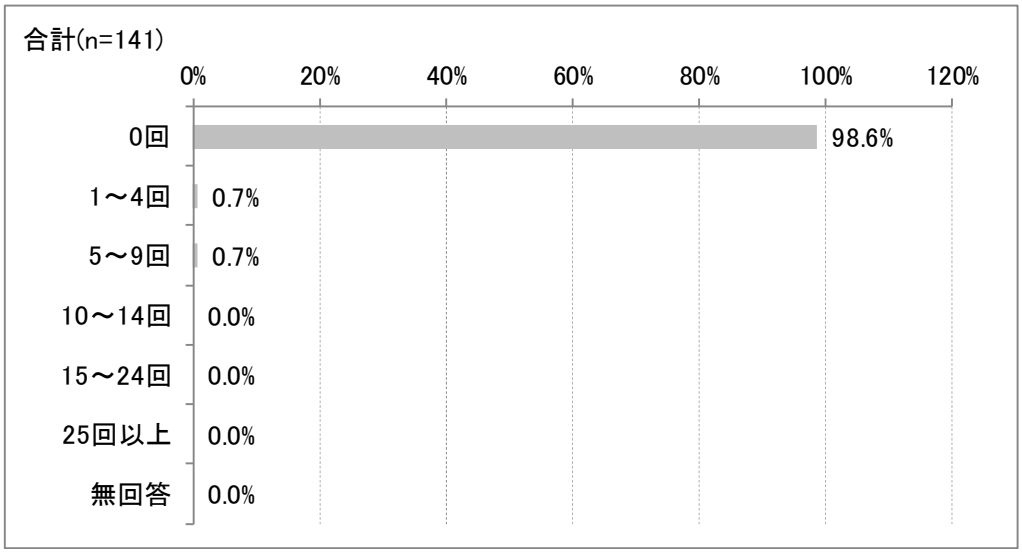
図表 3-6　サービスの利用回数（通所系）



(7)　短期系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 98.6%となっています。次いで、「1～4 回」、「5～9 回」がそれぞれ 0.7%となっています。

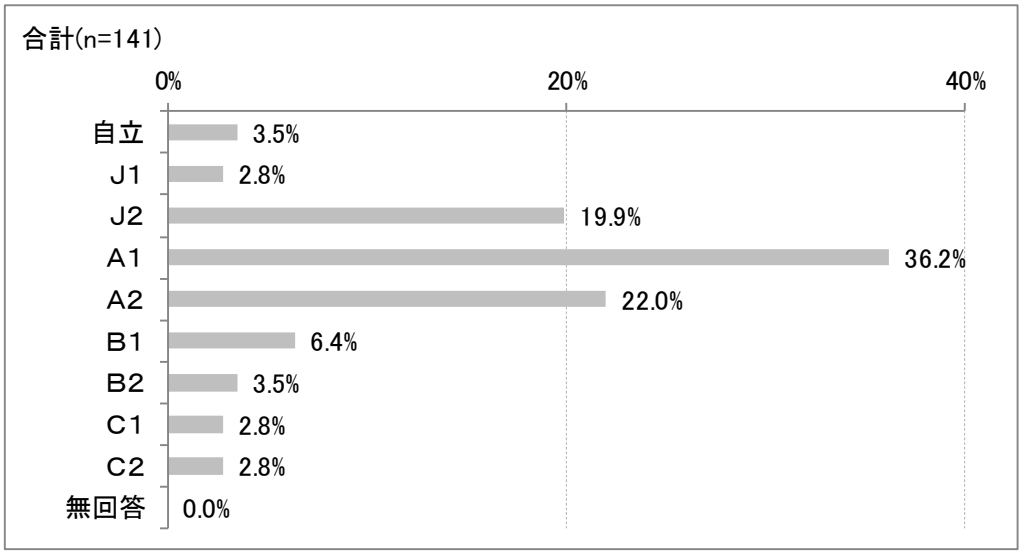
図表 3-7　サービスの利用回数（短期系）



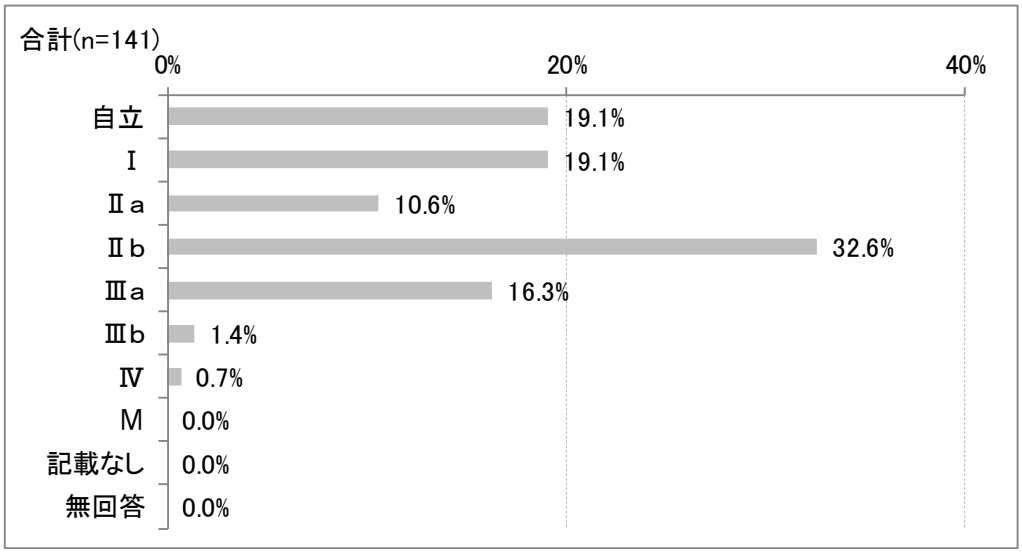

(8)　障害高齢者の日常生活自立度

「Ａ１」の割合が最も高く 36.2%となっています。次いで、「Ａ２」が 22.0%、「Ｊ２」が 19.9%となっています。

図表 3-8　障害高齢者の日常生活自立度



(9)　認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅱｂ」の割合が最も高く 32.6%となっています。次いで、「自立」、「Ⅰ」がそれぞれ 19.1%となっています。

図表 3-9　認知症高齢者の日常生活自立度